



# Face to Face

NO.3

特定非営利活動法人 T I C O



救急救助の技術指導に来ザした J P R 専門家チームとザンビア関係者  
(救急隊整備プロジェクト)



ツェツェ村自治会の評価ワークショップ  
(チペンビ農業開発ローン)



開墾した畑で順調に育ったレイブ（からし菜）  
(カルブウエ菜園プロジェクト)

## <主な記事>

- ・ 最先端の生き方
- ・ ザンビア滞在記
- ・ 救急隊整備プロジェクト通信
- ・ WAHEプロジェクト通信
- ・ 救急車がザンビアに到着
- ・ ザンビアからの研修生

TICOは保健・医療・農村開発などの分野を中心にアフリカ・ザンビア共和国で支援活動を行っている NGO（非政府組織）です。世界中の中の日本を考え、それぞれが自分にできる国際協力を実践していくために 1993 年に任意団体として設立、2004 年 9 月に特定非営利活動法人（NPO 法人）となり活動を続けています。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々と分かち合い、私たちの生活を振り返るとともに地域の精神文化の高揚に寄与することを目的としています。

# 最先端の生き方：国際貢献的道楽有機兼業農家

TICO代表 吉田 修

有機農業を実践する人に憧れ、尊敬する。長期的にみて人類はそれ以外に環境を保ちつつ食糧を得る方法はないと思われる。しかし、過酷な労働の割に収入はあまりに小さく不安定である。消費者からの評価もまだまだ低い。それでも、あえてその職業につく人は、未来を見据え理想を追求する人に違いないからである。

残念ながら諸事情により私はその厳しい生き方を選択できない。そこで、道楽有機兼業農家を目指している。しかも国際貢献的である。

さて、国際貢献的道楽有機兼業農家の効用をまとめてみたい。

- 1) 本業があり収入は安定している。
- 2) 安全な農産物を食べることができる。
- 3) 環境を保全する。(田んぼは優れたビオトープである)
- 4) 病虫害や悪天候の影響を受けても笑っている。

- 5) 地域循環の輪となり輸送によるエネルギー消費を抑制する。
- 6) 過疎高齢化により放棄された農地を再生する。
- 7) 楽しく運動ができる。
- 8) たくさん野菜を食べようになる。
- 9) 日本の食糧自給率を上げ、食糧危機を避けることができる。
- 10) 余剰を NGO に寄付できる。

TICO は、放棄された農地を借り受け有機農業を拡大します。田植え、稲刈り、野菜の植え付けなど、ボランティアを募集します。あなたも道楽有機農業をやってみませんか？また、年内にも青木ワークホーム(小規模作業所)と協力し、リサイクルと有機農産物のショップを開店します。資金不足で運営に窮する NGO にご協力お願いします。



## ザンビア滞在記

### TICO ゴンベ貧困地区訪問記録

今回は TICO が支援するゴンベ貧困地区の民生改善プロジェクトを視察した。TICO オフィスから舗装された道路を 10 分ほど車で行くと、突然赤土の道へ変わる。センターはそこから数分のセメント作りの家が立ち並ぶコンパウンド(都市型無計画貧困地区)入口付近にあった。

この女性の自立支援プログラムは 1997 年、子供達の栄養失調を改善するべく、12 人の母親に栄養教室を開いたのが始まり。まずは子供の死は魔術ではなく、栄養失調の問題であることを教えていく。根付くのに時間がかかったが、少しずつ女性達の意識が変わっていったと言う。現在は生徒数も増え、そして母親達はここで学んだ知識を生かして仕事も得て、家計を支える大切な役割を果たすようになっていく。子供達の健康も目に見えて改善したという。後に保育園施設も併設するようになり、教室を覗くと英語で元氣

よく挨拶してくれた。

職業訓練では料理、裁縫などを教えている。私が見学したのは 15 人の生徒がいる裁縫教室。日本の草の根無償資金供与によるミシン 10 台がフル回転しているとの事。赤ちゃんにおっぱいを飲ませながら裁断の練習をする女性もいるなど、まさに「学ぶ母親」の姿がそこにあった。

実際にこのプログラムに通える女性は、授業料を家族(つまり夫)が出してくれる「恵まれた」人達ともいえる。通えない女性との差が気になる所だが質問しそびれてしまった。だが、ここに通う女性達にとってこのプログラムは非常によく稼働している印象を受ける。

ローカルの人々による、ローカルのためのプログラム。現在 TICO は資金援助をしているだけで、活動には一切タッチしていない。いずれ資金援助も完全になくしてザンビア人によるプロ

アムステルダム大学大学院  
太田佐和香

ジェクトとして自立させる予定。非常に良い形でザンビア人が頑張っている例だったが、やはり問題もある。最近、保育園に通う 7 歳の女の子が通学途中に見知らぬ男にレイプされるという痛ましい事件が発生した。処女とセックスをするとエイズが治る、というデマがあるそうだが、こういった被害がザンビア中、ひいてはアフリカ、世界中でどれほどあるのだろうか。セキュリティはどこにおいても最重要課題のようだ。

また生活用水も足りていない。タンクが空で、業者に注文するも、2、3ヶ月届けに来ないとの事。ザンビアでは 10 月後半に雨が降り始めるという。現在大地はカラカラに渴いている。

\* 5 日間という短い滞在だったが、プロジェクト視察等、大変有意義な時間を過ごすことができたのは、TICO ザンビアオフィス皆様のおかげです。どうもありがとうございました。

# 救急隊整備プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 五十嵐 仁

ザンビアには日本で言う 119 番の救急隊というものが存在しなかった。2002 年 10 月から本格化したこのプロジェクトは人口 200 万の首都ルサカ市の救急隊の整備を目的としている。TICO と警察庁と消防局が連携し、ボランティア・警察官・消防官が救急隊の整備を行っている。このザンビア唯一の救急隊が 24 時間体制でルサカ市の救急救命活動を担っている。より迅速に現場に到着できるように分駐所の開設を現在進めている。



## 10月30日 ルサカ市消防本部とも連携

ボランティアで発足した救急プロジェクトは、ザンビア警察庁と連携し、この度、ルサカ市消防本部とも協力関係を結んだ。NGO、ボランティア、警察庁、消防本部の 4 者による交通事故や災害までをカバーする救急救助体制が確立した。

## 11月1日 本部と東部分署

救急隊事務所は、救急車や物資を送る時に使ったコンテナのリサイクル。無線室、資機材保管庫、仮眠室などあり。



## 救急隊員

隊員は地域のボランティア。無償で参加。しかし、貧困に苦しむ地域から来ている有志も多く、通勤費やお弁当代を TICO が支給。



## 救急隊自慢の小型救助車

車内に閉じ込められた怪我人を救うには、医療だけでは救えない。まず、救助が必要。そこ

で、救助機材をコンパクトにまとめ小型車に積み込んだ。



## 11月2日 落石事故で救助

市内南部の採石現場で落石事故発生、子ども 1 名が生き埋め、緊急出動。40 分後に無事救出。貧困地区では、食べるために働く子供が多く、体の小さい子供は穴の中に入り石の採掘。貧困がもたらす悲しい現実だ。



## 11月3日 救急訓練

これまで消防隊員は、応急措置についての知識がなかった。そこで、五十嵐の指導のもと応急措置の訓練が行われた。受講者のやる気で教える側も気合が入った。



## 11月9日 ルサカ市消防本部中央消防署に救急隊配備

市議会の承認を得、中央消防署に救急隊詰所を開設。繁華街に近く、東西南北 4 方にアクセスする国道が交差する地点で、救急業務の戦略上でも良い立地。

## 12月28日 ルサカ消防本部へ救助車寄贈

TICO と SCDP 共同で、現地有志からランドローバーを安価で購入。救助車に仕上げ、ルサカ消防本部へ寄贈。油圧式救助機材も搭載。市内 3ヶ所目の車両配備となり、これらの車両で市内全域を 24 時間カバー。



## 1月11日 ルサカ消防本部救助車が救助第1号

1月9日ルサカからリビングストーンへ続く国道上シマバラ付近でトレーラートラックの事故、怪我人 1 名が車内に閉じ込められた。消防本部に寄贈したばかりの救助車が出動。搭載された油圧スプレッダーでドアを瞬時にこじあけ、怪我人救出。早速、役に立った。

## 1月27日 日本からの救急車と消防車到着

和太鼓奏者ヒダノ修一氏が、募金を呼びかけ 12 月中旬に送った救急車と消防車（救助車）

が1月15日に到着。ルサカ消防本部へ寄贈。救急車は水戸市が、消防車は神戸市がそれぞれ無償で提供していただいた。ヒダノさん、チャリティコンサートで協力してくれた横浜のみなさん、水戸市の方々、神戸のみなさん、そして、徳島のみなさん本当にありがとうございました。



### 2月16日 隊員自主トレ中

TICOが招いた日本の救急救助専門家チームが技術指導のため、18日にザンビアを訪



れる。それに伴い自主トレ。体力もついてきたし、ある隊員は6kgも痩せたとか。

### 2月18日 JPR救急救助専門家チーム到着

正井潔氏が率いるJPR救急救助のプロチームがルサカ到着。ザンビア政府も国賓として受入れ、ザンビア警察庁副長官、ルサカ県警副本部長らが空港滑走路でお迎え。



### 2月21日 JPR訓練開始

訓練はルサカ市中央消防署で行われ、救助部門には9名が、救急部門には7名が参加。

訓練は、点呼や礼などの規律やチームワークから始まり、座学、救助機材を使っての現地訓練が行われた。事前準備も十分に中身の濃い指導となった。



### 2月24日 警察と消防の合同訓練(総合演習)

警察庁幹部、市長、消防幹部、日本大使館、JICA 幹部、そして一般ゲストなども招待。JPRチームのきびきびした動きは、ザンビア側に大きなインパクトを与えた。



JPR チーム 団長 正井潔氏

### JPR(日本国際救急救助技術支援会)とは?

Japan Paramedical Rescue の略で、開発途上国への救急救助技術の普及と支援を目的として、今年1月17日に設立したばかりのNGO。現役の救急救命士やレスキュー隊員でメンバーが構成されており、プロの専門家集団です。

### ちよつといい話

クリスマス翌日の夕方。救急1隊が待機している中央消防署へ行くと、署員から「ミスター・イガラシはアジアに行かなくてもいいのか?」と。「エッ、君たちも知っているのか?」「当たり前ですよ、いくらザンビアが内陸国だからと言っても、ニュースはすぐに届きます。この災害は普通じゃない。数万人が死亡している。」そう、スマトラ沖地震の話です。

そしてある消防職員が、「いつ私たちは出発すればいい?」と言うではありませんか。私は、「えー」と開いた口を閉じることが出来ないままでした。「アジアへ行って支援をしたいのか?」と聞くと、「消防隊員には国境などない。行きたい。TICOは何とかしてくれないのか。国境もないけど、お金もない。でもアジアの国、日本から学んだ救助技術を持っている!」と言うではありませんか。そうです、先般ザンビアまで自費で来てくださった神戸市消防局の正井さんのことです。彼から学んだ技術が我々にはある、災害で試してみたい、と真剣になって言うのです。

# WAHE プロジェクト通信

TICO ザンビア事務所 江橋裕人

## WAHE (ワヘ) とは？

Water(水)、Agriculture(農業)、Health(健康)、Education(教育)の領域をカバーしながら農村の生活水準向上を狙う TICO のプロジェクト。TICO は 2002 年ザンビア南部州にて飢餓緊急援助を行なったがそこで得た教訓とは「緊急援助の限界」と「飢餓をなくす為には農村に根本的対策が必要」との認識だった。いくつかの候補地から安全性や信頼できるパートナーの存在等の観点から支援地域をチベンビとカルブウェに決定した。



Chipembi

中央州チベンビ地区

中央州カルブエ地区

Karubwe

ザンビア共和国

## チベンビ

・農村開発ローン



## 小規模農村開発ローン

事業資金の無利子貸し付け・研修指導を行い、農民グループの小規模起業を支援する。日本人サポーターも同時に募集中。

## カクンバ農民組合

足踏みポンプによる菜園拡大事業



11月3日返済完了

## 11月17日

最終評価ワークショップ開催

今後は相当期間をおいて様子を確認することになる。

## チノノ女性の会

養鶏事業



10月5日返済完了

## 2月15日(火) 曇り

最終評価ワークショップ開催

焦点は今後続けていく為の問題点、すなわち運搬手段とマーケット。今後も一緒に知恵を絞ることになる。

## チレンガサ

搾油機によるヒマワリ油精製事業



11月10日返済は終了

## 2月22日現在

20人のメンバーが一人一万クワチャ出資して、25キロのひまわり種を購入。3グループに分けてひまわりを成育。グループ毎に土地準備、種まきもされているのでここまではよし。ひまわりを育てること自体は難しくないの、地道な雑草取りを怠らないことを願う。

## ツェツェ村自治会

手押しポンプ設置による井戸再生事業



12月1日返済終了

## 2月17日

最終評価ワークショップ開催

サンパさんにファシリテーターをお願い。参加型手法を用いて行った。内容は魅力的だが色々な気配りが必要で、それが全て為されていたわけではなかった。ローンプロジェクトは終了だが、今後を注視する。ポンプは問題なく稼動し生活用水として役立っている。

## ギルモア

保育園整備事業



イスが完成

## 1月12日(水) 晴れ

保育所用の家具の製作状況を確認。イスが2つ、テーブルが4つ、ボードが1つできていた。ほっておいたら誰も運ばないのでギルモアに移送する。

## 2月16日(水) 天候：曇り

イスとボードは完成引渡し済み。まだテーブルが4つ残っている。いつまでかかるやら・・・

紙面の都合で、ディップタンク(牛糞浴槽)とアグロフォレストリー事業についての報告は次回掲載いたします。

# カルブウエ

・菜園プロジェクト



## 菜園プロジェクト

使用不能だったボアホール(井戸)の修理により野菜農園への水供給を可能にし、並行して農民に野菜栽培法などのセミナーを開催。

### 11月12日(金)晴れ

虫害でキャベツは全滅。タマネギは順調。レイブは苗床から移植の時期。リーダーのケニスと今後を相談。マーケット重視で、切れ目無く、質の高いものを作って欲しい旨お願い。タンクは役立っているが、5時間かけて5000Lフルにするのは大変。将来はソーラーパワーのポンプも選択肢か。



### 12月11日(土)晴れ

ミーティングは始まっていた。結構バランス良く発言され、楽しそうに話は進んでいた。議題は土地問題(既存菜園、拡大予定地)、灌漑施設、直面する問題、収入活用方法、新規プロジェクトなど。ひと言話す機会があったので、主役はあなた達であり、問題にどう取り組んでいくかもあなた達次第と強調。



### 12月30日(木)

この一ヶ月、菜園は順調に拡大。雨のおかげ。ワークショップの効果もあり、少しずつだが農民の意欲意識の高まりを感じる。このまま行けば、菜園拡張も可能に思える。レイブ、玉葱は売れる状態。白菜、キャベツも順調だ。ナス、カリフラワー、トマトはまだ苗床。来月には移植。



### 1月7日(金)、8日(土)

Record keeping, leadership ワークショップ。ケニスの希望に添った内容。ところが、開始時間に講師が来てない。メンバーほぼ全員揃っていたのに時間を無駄にした。2日目。1時間遅れの10時から始まった模様。レンジェ語なので内容はわからないが参加者は積極的。参加者曰く、間違いを訂正でき意義深い内容だったと。講師



の不誠実さは気に入らないが、参加者に得るものがあるのは救い。メンバー29名の殆ど参加。勉強道具と昼食付きとは言え、参加人数はたいしたもの。

### 1月28日(金)雨

頼まれていた農薬散布用長靴とマスクを渡す。レイブは相変わらず順調。ルサカからちょこちょこ買いに来るようだ。レイブ需要がそんなに高いとは少々驚き。キャベツ順調。来年もこの時期にキャベツを作らなくては。

### 2月3日(木)晴れ

野菜買い付け。SCDP ショップの為にキャベツ、レイブ、白菜、トマト、個人消費用にも多少購入。ケニスが自分の牛を使って開墾していた。



レイブやキャベツの移植場所が足りず自ら動き始めたのだ。

### 2月10日(木)晴れ

2週間近く雨が降らず、だいぶ乾いている。野菜は水が近くにあるのでなんとかなるが、メイズは辛い。菜園は男性三人が水撒き、二人がポンプ。女性陣はメイズの雑草取り。水が少なくても大丈夫なトマト、発育が進んでいるキャベツはともかく、レイブとカリフラワーにはもっと水が必要。乾いた土は硬く作業も停滞気味。

### まとめ 2月22日現在

2月は非常に雨が少なく難儀している。井戸もタンクもあるが、雨が降れば水撒きの手間が省けるので楽。その意味で水があっても雨は欲しい。メイズの雑草取りも忙しい。29人もメンバーがいればどうにかならないの、とは思うのだが……。野菜は売れる状態だが(レイブとキャベツ)、問題はマーケット。利益や販売経費を考えると難しい。販路拡大も手を貸さなくてはならない。



## TICO 国内活動 (2004年12月~2005年2月)

### <2004年12月>

- 3日 小松島中学校へ講師派遣 HIV/AIDSについて(吉田修代表)
- 9日 世界エイズ・結核・マラリア対策基金事務局長との懇談会出席(吉田修代表)
- 10日 消防自動車(救急隊整備プロジェクト)神戸港出航
- 13日 救急車(救急隊整備プロジェクト)横浜港出航
- 15日 GII/IDI 懇談会保健分野研究会アフリカ分科会出席(吉田修代表)
- 18日 地球人カレッジ「アフリカにおけるエイズの現状とその戦略~マラウイでの調査報告より~」(吉田修代表)

### <2005年1月>

- 15日 消防車及び救急車がザンビアに到着
- 18日 木屋平中学校へ講師派遣(吉田修代表)
- 22日 地球人カレッジ「JICAの役割と最近の動向~国民参加促進事業を中心に~」(有田敏行さん)

### <2005年2月>

- 4日 北島中学校へ講師派遣(吉田修代表)
- 8日 国際協力意見交換会(県主催)に出席(吉田修代表・福土庸二事務局長)
- 10日 鴨島小学校へ講師派遣(福土庸二事務局長)
- 11日 とくしま県民プラザ主催「組織マネジメント講座」出席(中野貴志さん)
- 15日 NPO広報力向上委員会主催「NPOとNGOの広報力スキルアップセミナー」出席(中野貴志さん)
- 19日 地球人カレッジ「ルーマニアの環境保全について」(大垣光治さん)
- 20日~23日 ザンビアのヘルスセンター婦長3名がさくら診療所・TICOを視察
- 20日 (財)高知県国際交流協会主催「民間国際交流・協力団体リーダー育成セミナー」で基調講演(吉田修代表)
- 23日 森山小学校の寄付贈呈式に出席(福土庸二事務局長)
- 24日 GII/IDI 懇談会保健分野研究会アフリカ分科会出席(吉田修代表)

## 救急車が無事に到着!

去年秋に行われた、和太鼓奏者・ヒダノ修一さんらによるチャリティーコンサートで集まった寄付金で、中古救急車をザンビアに無事届けることができました。

12月13日に日本を出発し1月15日到着という長距離輸送でしたが、車両に傷みもありませんでした。

関係者ならびにチャリティーコンサートへご来場していただいた皆様に感謝申し上げます。

### 収益金の内訳

チャリティーコンサートの収益金	¥895,000
ザンビアへの救急車輸送費	¥777,180
残金(神戸からの消防車輸送費の一部へ)	¥117,820

なお、残金はヒダノさんの了解を得て、同時期に神戸から送った消防車の輸送費の一部といたしました。



## 3月の地球人カレッジのお知らせ

### 青年が見たザンビア

#### 第1部 ザンビア帰国報告

講師: 江橋裕人さん

#### 第2部 本当の貧しさとは?

講師: 小川英美香さん

3月26日(土) 午後7:00~9:00

(通常より30分早めの開催となります)

ところ: 吉野川市山川町さくら診療所デイケア室

参加費: 無料 予約: 不要

#### 第1部

ザンビアでTICOザンビア事務所スタッフとしての活動状況を、ざっくばらんに報告します。

#### 第2部

世界の最貧国の一つと言われるザンビア。しかしその実態は?

インターンとしてザンビア滞在中に疑問に感じた「本当の貧しさとは何か」について一緒に考えませんか?

#### <講師紹介>

江橋 裕人 (えはし ひろと)

東京外国語大学外国語学部朝鮮語学科卒業。

民間企業の港湾運送事業に従事したのち、イギリスにてアフリカ政治、国際関係論修士号取得。

2003年3月よりTICOザンビア事務所駐在。

小川 英美香 (おがわ ふみか)

筑波大学第三学群国際総合学類入学。

2004年7月より大学を休学しTICOの姉妹団体であるSCDPにてインターン。

2006年筑波大学卒業見込み。

## Amazonでお買い物

TICOのホームページのリンクから「Amazon(アマゾン)」でお買い物していただくと、代金はそのままで購入金額の3~5%がTICOに還元されます。



2004年は延べ264の商品の注文で34620円が還元されました。お買い物していただいた皆様、ありがとうございます。

## ありがとうございました (敬称略)

### 寄付をくださった方々

美馬安子 高木クニ子 山口華奈子 中村美恵子  
西尾正己 麻峯晴美 秋月益子 寺口美香 畑和子  
平野佐紀 五十嵐仁 戸井裕江 矢野和友 森章子  
宗本クニコ 工藤シズ子 楠川昌良 橋本伸子  
河野南代子 中上邦光 山岡智互 脇坂トキ子  
さくら診療所募金箱 森山小学校児童会 わらびの  
会 高松聖ヤコブ教会婦人会 阿波銀行山川支店  
ヒラオカ薬局 小川芙美香

### 会費を継続して払ってくださった方々

伊勢英利 岡田理絵 小野俊明 河合龍男 黒田浩  
古賀明子 篠原隆史 四宮万代 白石吉彦 谷泰伸  
白石勝美・久代 竹内美映 津田道子 中村美恵子  
新居智次・和世 西岡秀朗 平野佐紀 青柳美代子  
饗場和彦 瀧浩樹 寺田由紀 神田隆子 金納千晴  
高井美穂 峰尾武 田中純子 長野茂夫 中村典子  
橋本吉之 松島拓 坂東正章 真子多恵 宮本公博  
六車ハルエ 佐藤三千子 和佐敦史 岩田祥三 山  
岡智互 木下恭亮 鈴木一城 高瀬房子 坂東印刷  
ヒラオカ薬局 蛍光産業(株) こうざい調剤薬局 ホ  
ウエツ病院 NPO法人 AMDA みずほメディカル  
北島コーポレーション 石井やよい

### 新たに会員になってくださった方々

林尚志 名城美奈子 東條昭子 井上俊 常見裕之  
徳島商業高校 JRC  
(2004年12月1日から2005年2月28日ま  
での事務局入金分:順不同)

## 【TICO への入会方法】

会員となって資金面から TICO の活動をサポートして下さるかたを募集しています。入会ご希望の方は郵便振替用紙に所定の年会費を納入して下さい。インターネットの TICO ホームページからも入会申し込みが可能です。会員の方には TICO ニュースレター『Face to Face』を毎月送付いたします。

【正会員】 12,000 円

【賛助会員】 個人:12,000 円 学生:6,000 円  
団体:15,000 円

(通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい)

振込先:郵便振替口座 01640-6-37649  
振込先加入者名:TICO

Eメールアドレスをお知らせいただいた方には TICO の各種イベント情報をメールにてご連絡申し上げます。

TICO の活動は皆様からの会費やご寄付によって支えられています。会費の納入がお済みでない会員の方は、納入下さいますようお願いいたします。なお、郵便口座からの「年会費自動引き落とし」もご利用いただけます。事務作業軽減のためにも、ご協力お願いいたします。

## ザンビアから研修生

2月20日から23日まで、ザンビア・ルサカ市の保健局ヘルスセンター婦長3名がさくら診療所とTICO事務局を訪問しました。

目的は、日本の地域保健の理論と実践について学び、地域保健活動を促進・活性化させるための知識と技術を習得するためです。

当方での研修中、阿波踊りや和紙漉き、藍染

めも体験。また、新町小学校での国際理解講座に参加したり、デイケアのお年寄りとも習字や折り紙を一緒に行い楽しい時間を過ごしました。



さくら診療所でデイケアを視察するザンビア人看護師の様子

## お知らせ

### 講師派遣

TICO では学校の総合学習の時間などでの国際理解教育、開発教育の講師派遣をおこなっています。お問い合わせはTICO事務局まで。

### チペンビ農村開発ローン支援者募集

事業 No.8 養鶏事業 (サングワポクラブ)  
事業 No.9 タックショップ(カリケンカクラブ)  
支援金一口5000円。各グループから支援者の方  
に定期的に手紙が届きます。

TICOホームページでTICOからの最新情報をご  
覧いただけます!!

<http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/>

## 募金のお願い

TICOのザンビア支援活動は皆様からの寄付金や会費により支えられています  
(事務局の作業軽減のため領収書は発行していません。必要な方はお申し出下さい)

郵便振替口座 01640-6-37649

振込先加入者名:TICO

TICO ニュースレター Face to Face 第3号 2005年3月発行

発行人:吉田 修 編集担当:福士 庸二

【TICO事務局連絡先】

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 212-6 電話:090-7786-3193 / FAX:0883-42-5527

TICO ホームページ: <http://www.nmt.ne.jp/~zikomo/> e-mail: [zikomo@nmt.ne.jp](mailto:zikomo@nmt.ne.jp)